

# 令和7年度学校評価報告書

北海道興部高等学校

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的知識・技能を修得し、主体的・対話的で深い学びを実現することで思考力・判断力・表現力の伸長に努める。
- (2) 自己形成を図り、地域貢献に努め、他を思いやる温かい心や豊かな人間性の育成に努める。
- (3) 主体的に未来を切り拓く目標を持ち、不屈の精神と健やかな身体をもってやり抜く力の育成に努める。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	学校評価（自己評価）は、端末の活用や個に応じた指導、授業改善、観点別評価、地域連携のいずれも概ね順調に進んでおり、全体として一定の成果が見られる結果（B評価）となった。	生徒一人ひとりに丁寧に向き合い、公営塾の活用や苦手教科への対応など学習指導の充実が図られている。少人数の利点を生かした教育課程や地域と連携した取組も積極的であり、学校全体の方向性が進路実現につながっている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台端末を活用した授業実践事例を教科内・校内で共有し、個に応じた指導の質的向上を図る。</li> <li>・授業のねらいと評価規準を生徒と共有し、学習の見通しをもたせる指導を一層徹底する。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、公開授業や相互授業参観を通じた授業改善を推進する。</li> <li>・観点別評価の運用状況を検証し、評価が学習意欲の向上につながるよう評価方法の工夫・改善を行う。</li> </ul>	
生徒指導 特別活動	基本的な生活習慣の確立には課題が見られる一方で、生徒会活動等は概ね順調に進んでおり、いじめ防止活動については特に充実している（A評価）結果となった。	小規模校の強みを生かし、生徒一人ひとりに向き合う指導や教員の成長に期待が寄せられている。一方で、より活気ある学級づくりや基本的な生活習慣の確立に課題があり、家庭との役割分担や実態の把握が求められている。また、生徒は落ち着いた様子で活動しているが、部活動やボランティアの様子が見えにくいとの声もある。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の声かけや面談を通して、生徒一人ひとりの生活実態を把握し、基本的な生活習慣の定着を図る。</li> <li>・生徒会活動や部活動等を通じて、生徒の自己有用感や主体性を高める取組を継続・充実する。</li> <li>・いじめ防止に関する共通理解を図り、未然防止と早期対応を組織的に行う体制を維持する。</li> <li>・特別な配慮を必要とする生徒について、関係機関と連携しながら校内での情報共有と支援体制の充実を図る。</li> </ul>	
進路指導 キャリア教育	進路に関する各項目は、いずれもB評価となり、生徒の主体的な進路選択の育成や、保護者・関係機関との連携、校内体制による職業観の育成は概ね順調に進んでいる。	生徒一人ひとりに寄り添い、目標実現に向けた指導が適切に行われていると評価されている。今後は、その実績や進学・推薦枠についての情報発信をさらに強化することが期待されている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した計画的・系統的な進路指導を行い、生徒の主体的な進路選択を支援する。</li> <li>・総合的な探究の時間等を活用し、生徒が自己理解を深める機会を充実させる。</li> <li>・保護者や関係機関との連携を強化し、進路に関する情報提供や相談体制の充実を図る。</li> <li>・校内の進路指導体制を点検・改善し、教職員間の連携をより一層強化する。</li> </ul>	
健康・安全指導	心身の健康に関する教育活動や特別な配慮を要する生徒への対応は概ね順調に進んでおり、教育相談活動や防災・事故防止の取組は特に充実している（A評価）結果となった。	思春期の生徒への丁寧な対応に配慮しつつ、現行の取組を継続してほしいとの声が多い。少人数の利点も生かされており、今後も感染症や災害に関する知識の向上に取り組むことが期待されている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を含む健康・安全に関する指導を継続し、生徒の健康意識の向上を図る。</li> <li>・Ai-GROWやQUテストを活用して教育相談体制の充実を図り、生徒が安心して相談できる環境づくりを進める。</li> <li>・特別な配慮を必要とする生徒について、校内外の関係者と連携し、きめ細かな支援を行う。</li> <li>・防災・事故防止に関する指導や訓練を計画的に実施し、安全意識の向上を図る。</li> </ul>	
信頼される 学校づくり	地域連携や情報提供、危機対応、学校評価に基づく改善方策の共有は、いずれも十分に機能しており、全体として高い水準で取組が進んでいる（A評価）結果となった。	保護者や地域との関係づくりの重要性が指摘されており、学校から地域へ積極的に関わる姿勢や連携のさらなる充実が求められている。一方で、学校行事や情報発信、地域と共にある学校づくりの取組は高く評価されており、志願者増加にもつながっていると考えられている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を活用し、地域と連携した教育活動を継続・発展させる。</li> <li>・学校の教育活動や成果について、保護者・地域への情報発信の充実を図る。</li> <li>・危機管理体制を点検し、迅速かつ適切な対応ができる体制を維持する。</li> <li>・学校評価の結果を教職員間で共有し、改善に向けた取組を次年度の教育活動に反映させる。</li> </ul>	
組織運営 働き方改革	学校課題の共有や教職員の協働は十分に進んでいる一方、教育活動の成果と課題の整理や校務の効率化・超過勤務の縮減については、概ね順調ながら一部に課題が見られる結果（B評価）となった。	生徒対応に伴う時間的制約の中でも、教職員が懸命に取り組み、地域の期待に応えようとしている点が評価されている。一方で、負担軽減を図りつつ本務を円滑に進める組織運営が求められており、全体としては順調に進んでいると見られている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題や教育活動の成果と課題を共有し、組織的な改善に取り組む。</li> <li>・教職員の協働を促進し、分掌・学年を越えた連携を一層強化する。</li> <li>・校務の効率化を進め、業務の見直しを通して超過勤務時間の縮減を図る。</li> <li>・PDCAサイクルを意識した学校運営を行い、持続可能な組織づくりを進める。</li> </ul>	
教職員の資質向上 職場環境	校内研修の実施や服務規律の遵守、安心して働ける職場環境は十分に確保されている一方、外部研修の成果の校内への反映については概ね順調ながら一部に課題が見られる結果（B評価）となった。	少人数での運営の大変さがある中、地域や保護者との連携を生かすことで業務の円滑化が期待されている。教職員の専門性が発揮され、生徒からの信頼も得ている点が評価されており、全体としては順調に進んでいると見られている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題を踏まえた校内研修を計画的に実施し、教職員の指導力向上を図る。</li> <li>・外部研修の成果を校内で共有し、教育活動への還元を促進する。</li> <li>・服務規律遵守に対する意識を維持・向上させ、信頼される教職員集団を目指す。</li> <li>・教職員が安心して職務に専念できる職場環境づくりに努める。</li> </ul>	